

モスクワ国際関係大学（MGIMO）との協議

< 概要 >

2011年12月21日、モスクワ国際関係大学（MGIMO）において第2回 JIIA-MGIMO 会合を開催した。本会合では、日ロ両国新政権の外交政策、北東アジアにおける安全保障問題、日ロ両国の政治・経済関係、アジア太平洋地域における（経済）統合と日ロ両国の協力とについての展望、といったテーマを取り上げ議論した。本会合への参加者は以下の通り。

日本側：

浅利秀樹 日本国際問題研究所副所長
溝端佐登史 京都大学経済研究所教授
兵頭慎治 防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長
山崎直美 防衛大学校准教授
伏田寛範 日本国際問題研究所研究員

ロシア側：

S.チュグロフ MGIMO 国際ジャーナリズム学科教授
Yu.ドゥピニン MGIMO ロシア外交学科教授
E.コルドゥノワ MGIMO 政治学研究科副科長兼アジア・アフリカ学科准教授
S.ルニョフ MGIMO アジア・アフリカ学科教授
A.パノフ MGIMO 外交学部教授
D.ストレリツォフ MGIMO アフリカ・アジア学科長
A.ヴォスクレセンスキー MGIMO 政治学研究科長兼アフリカ・アジア学科教授

< 主な論点について >

- ・ 、 の外交・安全保障問題では、台頭する中国をどのように評価するのかが論点となった。日本・ロシア双方ともに、中国は鄧小平時代の「韜光養海」から路線を修正し、軍事面・経済面で台頭することを隠さなくなった面もあると理解している。同時に台頭する中国の外交上・安全保障上の意図が必ずしも明確でないことに懸念を示している。また、中国の今後について、ナショナリズムの盛り上がり、格差拡大、成長鈍化の兆しなど、様々なリスク要因があることが指摘され、依然として不透明要素の強い中国が国際社会において（第一義的にはこの北東アジア地域において）責任ある主体となるように、働きかけてゆくことの重要性が確認された。
- ・ アジア太平洋地域における各国関係はおおむね良好であり、日中、日韓、中韓、中ロ、米中関係は経済を中心に相互依存を強め急速に接近し安定している。アセアン地域にお

いても経済統合が進み、政治対話の機会が大きく拡大している。こうしたなかで、ただ日口関係だけは領土問題という棘があるために十分には発展していない、領土問題解決に向けた努力を進める必要があるとの指摘が日本側出席者、ロシア側出席者からなされた。

- ・ 中国とロシアは友好関係にあるが、ロシア側は中国一辺倒の政策はロシアにとってリスクの大きいことを率直に述べた。ロシアは極東地域の衰退に頭を悩ませている。中国の台頭を受け、ロシア側からは一種の「対中包囲」政策として日口が戦略的に手を結ぶ必要性があるのではないかという主張さえも見られたが、日本側はあくまでも対中政策の基本は「関与とヘッジ」であるとし、中国を挑発するような「包囲網」作戦は不適切であることを指摘した。(もちろん日本側も、日口両国が利害を一致させる局面が現れる可能性を排除はしていない。中国が国際社会における責任ある主体となるように日口が協力して働きかけを行なってゆくことの重要性については日口共通の認識となっているとの発言もあった。)
- ・ 中国は 3000 年来の国際秩序(冊封体制)をアジア太平洋地域に再現しようとし、既存の国際秩序に真っ向から挑戦しようとしていると評価する向きもあるが現実的な解釈ではない。米中両国は(主に経済面で)すでに切り離すことのできない相互依存関係を構築しているため、今後両国が深刻な対立関係に陥るとは思われぬ。中国も既存の国際関係を維持してゆくことが自国の利益となることを理解しつつある。ただし、日中間では(中国国内の統治の問題から日本を敵視する傾向があり)対立が生じる可能性は排除できない。「文明内の対立」がこの地域におけるリスクの一つといえる。こうした対立を起ささないためにも、この地域におけるマルチの枠組(例えば六カ国協議や東アジアサミット)で安全保障問題について協議することを考えるべきである。現状、ロシアは東アジアにおいては各国の対立を傍観する立場にとどまっているが、今後はこうした多国間の枠組を通じて地域の安全保障に積極的に関与する必要がある。ロシア極東・シベリアの安全保障のためにも、傍観者の立場から脱しなければならない。ロシアはアジア太平洋地域の安全保障にどのように寄与していくのかが問われている。(以上、ロシア側発言)
- ・ 伝統的にロシアの安全保障政策においてアジア太平洋地域の重要性は高くはなかったが、ロシアは近年、欧米諸国との関係を改善させ、「東側」にも本格的に進出できる余裕が生まれてきた。東アジアにおけるロシアの最大のパートナー国は中国だが、2005 年頃を境に中口両国の蜜月関係は終わり、新たな段階に移りつつある。戦略面でも従来のような「アメリカへの対抗」で中口両国が結びつくことはなくなった。「中国ファクター」がロシアの安全保障政策のなかで強い影響を及ぼしつつある。中国の台頭を受け、ロシアは両国関係をプラグマティックに対処しようとしている。「中国ファクター」はロシアを日本に接近させる要因ともなる。アジア太平洋地域全体を俯瞰したとき、日米口 3 カ国が利害を一致させる局面は少なくとも、各国の連携強化の機運が高まっている。(以上、日本側発言)

- ・近年よく言われているロシア（外交）のアジア・シフトは、プーチン時代から継続してきたものである。メドベージェフ時代には「対米リセット」がなされ、欧米中心外交になったとの評価があったが、メドベージェフ外交はプーチンのそれと大差ない。違いがあるとすれば、プーチンは極東ロシアの劣化（中国の「資源基地」化）をロシアの脅威としてメドベージェフよりも強く認識している点である。プーチンが大統領に復帰することで、ロシアの対アジア太平洋地域外交はより前面に出てくることが予想される。（日本側発言）
- ・ の日ロ両国の政治・経済関係では、両国における相手国のイメージや情報の非対称性が両国関係の進展を阻む大きな原因となってきた。概してロシア人の日本に対するイメージは良く、和食や武道など日本文化はもはやロシア人の日常生活の一部として取り込まれている。その一方で、日本人のロシアに対するイメージは相変わらずネガティブなものが多い。また、経済面でも日ロ両国の非対称性が目立つ。「近代化」を目指すロシアにとって日本がこの地域の重要なパートナーであることは疑いないが、日本にとってはロシアが唯一のパートナーとはいえない（たとえばエネルギーの供給面で）。こうしたアンバランスな関係が日ロ関係にそのまま反映されてきた。だが近年、こうした問題は改善されつつある。（ロシア側発言）
- ・ 日本文化（大衆文化も含めて）がロシア国民に広く受け入れられるようになるにつれ、文化の持つ影響力は相対的に低下してきており、（時としてロシアにとっては好ましくない）日本政府の対ロ政策がそのままにロシア国内の日本に対するイメージに反映されるようになりつつある。（ロシア側発言）
- ・ ロシアがアジア太平洋地域に本格的に進出することによって、日ロ両国が利害を一致させ協力してゆくべき分野は自然と表れてくるはずであり、両国間の協力の可能性と必要性はかつてないほどにまで高まっているとの発言が、日本側出席者、ロシア側出席者から示された。
- ・ の日ロ経済関係について、日本企業によるロシアへの投資は徐々に増加しているが、現状、満足できる規模にはいたっていないとの指摘が主に日本側からあった。投資の受入国であるロシア側の問題点（制度、インフラ、裾野産業の弱さ）が目立つ。また、日本企業の側も昨今の不景気の影響を受け、対ロ投資が鈍る傾向が現れているなどといった指摘が相次いだ。両国の国内事情が経済関係の進展に大きく作用している、等の指摘もあった。
- ・ 現状、アジアではすでに高度な経済連関が築かれている。アジア太平洋諸国はそれぞれの比較優位を生かし、相互に関係を深化させている。ロシアは何に強みを持つのか、アジア太平洋地域でどのような相互依存関係を築くことができるのかが問われている。単なる資源供給国ではないロシアとはどのような姿が考えられるのか、またどのような姿になるべきかが問われている。（ロシア側発言）
- ・ アジア太平洋地域においてさまざまな経済協力（統合）の枠組が構想され、実現されよ

うとするなか、ロシアはどのような形でこうした枠組に参加するつもりなのかが問題となる。単なる原料供給基地にとどまる可能性は低くはない。この地域における既存の経済関係を十分に考慮し、ニッチ市場に参入することなしには極東ロシアの「近代化」は困難。(日本側発言)

- ・従来のロシアの対アジア太平洋諸国政策はバイを重視したものであった。この地域において経済統合が進むなか、ロシアはマルチの関係を重視しなくてはならない。アジア太平洋へロシアが参入するためには日本との関係強化が欠かせない。良好な日口関係がロシアにとっての橋頭堡となる。その一方で、現状、日口両国はお互いがお互いをなくては困るというほどには必要としていないのが問題である。(ロシア側発言)
- ・地域統合に向け、今後ルール作りが重要となる。ロシアはルール作りに積極的に参加することによって、将来の統合のあり方に影響を及ぼすと共に、統合されたアジア太平洋地域のなかでどのような位置を占めるのかを考えなくてはならない。日本はロシアがアジア太平洋地域におけるプレゼンスを高めるための不可欠のパートナーであり、日本との協力があってはじめてロシアはこの地域に参入することができる。日口両国は政治・安全保障・経済・文化さまざまな分野において協力関係を深化させてゆくことが求められる。